

多久高校バドミントン 愛好会が全国の舞台へ

～社会体育が育てた希望～

コート縦横無尽に走り回り、素早い動きで力強いスマッシュや柔らかいショット、相手とのかけひきでポイントを決めるバドミントン。近年では、世界を舞台に日本人選手の飛躍が報じられる中、佐賀県内でも、多久市の選手の活躍が輝きを放っています。地域の中で育成に取り組んでこられた指導者たちと、その関わりを紹介します。

これまで30年に渡り、多久市でバドミントンの普及と育成に尽力してこられた、スポーツピア「バドミントンJr」の監督を務める田中昌樹さんに、その歩みを伺いました。

多久で強い バドミントン選手を育てたい

「地元多久市で、ジュニアから育てたいという思いと、教員としてスポーツを通じ、子どもたちに関わりたいたいという思いから、平成2年に当時の勤務先の、多久西部小（現・東原彦倉西溪校）でチームを発足しました。現在は、幼児から中学生を対象に、バドミントンの楽しさを伝えると共に、技術の向上、そして多久市のバドミントンのレベル向上に取り組んでいます」と話す田中さんの元には、約30人の子どもたちが通い、日々の練習で汗を流しています。

その甲斐あって、徐々に大会で結果を出す選手が出てくる中、田中さんは、実業団でプレーをしていた山下大介さんから、地元佐賀で子どもたちにバドミントンの指導をしたいと相談を受け、多久市

には人材や練習場所などの環境が整っていることから、山下さんが運営するスクールを、多久市で開設する運びとなりました。

多久育ちの選手が大活躍

2人の指導者の相乗効果で、多久市のバドミントンレベルは向上し、九州大会でも優勝するなど、活躍する選手が増えてきました。

長年の取り組みが実を結び始め、県内のバドミントン界で、多久市は一目置かれる存在となっています。

田中さんは「強い選手を育てたいのはもちろんですが、バドミントンは小さいお子さんの体づくりに向いているスポーツです。動体視力や瞬発力、持久力など、身体能力を磨くことができますし、生涯スポーツとしても楽しめます。ぜひ、気軽に始めていただきたいと思いますね」とその魅力を語られました。



取材協力

たなか まさき
バドミントン Jr 監督 田中 昌樹 さん